

教員養成課程における 国際交流を通じた新たな視点の獲得

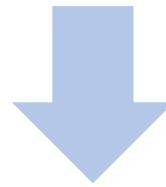


多文化理解実践専攻 4年
瀬戸崎ゼミ 山田有希

背景 1. グローバル社会の進展

【急速なグローバル社会の進展】

- ・ 外国人労働者の受け入れを拡大（法務省 2018）
- ・ 訪日外国人観光客は史上初の3000万人突破
（JNTO 2018）



- ・ 多様な背景を持つ人との交流が増す（沼田 2012）
- ・ 外国との交流や協力を一層充実させることが重要
（文部科学省 2017）

背景 2. グローバル人材育成の必要性

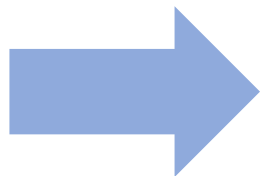
「グローバル人材」

多様な背景を持つ他者に対し、自分の考えを分かりやすく伝え、価値観の違いを理解し、**相互的に新しい価値を生み出す**人材
(経済産業省 2011)

グローバル人材の育成は急務
(文部科学省 2013)



初等中等教育
→多様な考え方や異文化理解力を養うことが重要
(経済産業省 2011)



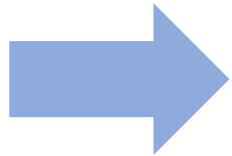
教員がグローバルな見方・考え方や
資質・能力を持つことが重要 (松井 2018)

背景3. 教員養成課程における国際交流学習

実践例

→教員に対する海外交流授業・相互訪問（朝倉 2015）

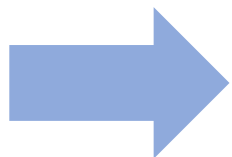
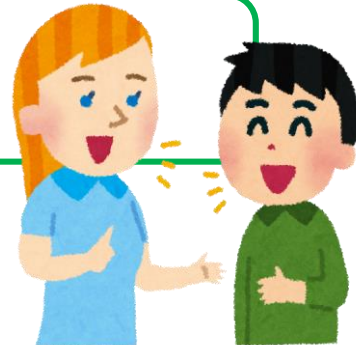
全ての教員への提供は難しい



教員養成課程の段階での機会提供の必要性

実践例→イングリッシュカフェ（宇塚 2013）

大学生に対する国際交流学習の事例は多数



教員の資質向上をねらいとした研究は希少

本研究の目的



教員養成課程を対象とした国際交流学習を实践



教師教育における本実践の意義について検討



国際交流学習の実践

対象：教育学部生11名, 大学院生11名（現職教員3名）計22名

A氏による「内戦・シリア難民」
についての講話（30分）

質疑応答（20分）

グループ議論（15分）

A氏によるシリアの伝統料理披露
（30分）

B氏による「海外旅行での経験」
についての講話（35分）

「ダブルであることによる苦悩」
に関する議論（25分）

グループ議論（10分）

- ・ ダマスカスの紹介
- ・ シリアでの内戦
- ・ 難民の受け入れ状況
- ・ 日本に訪れて感じたこと
- ・ 現在の活動について



国際交流学習の実践

対象：教育学部生11名, 大学院生11名（現職教員3名）計22名

A氏による「内戦・シリア難民」
についての講話（30分）

質疑応答（20分）

グループ議論（15分）

A氏によるシリアの伝統料理披露
（30分）

B氏による「海外旅行での経験」
についての講話（35分）

「ダブルであることによる苦悩」
に関する議論（25分）

グループ議論（10分）

- ・ 海外旅行での経験
→ 英語, コミュニケーション
の重要性

- ・ ダブルが抱く苦悩
→ いじめ・差別の経験



評価方法

【アンケート調査】対象者：参加者22名

- ・ 講話に関して(4件法)
 - ・ 議論に関して(4件法)
 - ・ 本実践の感想(自由記述)・・・カテゴリーに分類し集計
- 肯定・否定回答に分類/直接確率計算

【インタビュー調査】対象者：学部生2名，院生3名

「講話・議論に対する思い」，「教育的観点からの考察」など
・・・発話をカテゴリーに分類

【グループ議論の発話】対象：4グループ

A氏の講話によるグループ議論の発話のみ



結果・考察（A氏の講話・議論）

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
	講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	* *
	講話の内容についてさらに深く学びたい	22	0	* *
議論	本日の議論は教師として役に立つ	22	0	* *
	議論をして新たな視点を獲得した	22	0	* *

** : $p < .01$ 有意差あり

子どもたちへの情報発信について考察

直接交流の良さを実感

シリアや難民に対するイメージの変容

シリア・難民問題への興味喚起



結果・考察（A氏の講話・議論）

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
	講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	* *
議論	子どもたちに伝えることの幅は広がった。	22	0	* *
	教師となる自分が子どもたちに何を伝えるべきか考えた。	22	0	* *
	議論をして新たな視点を獲得した	22	0	* *

** : $p < .01$ 有意差あり

子どもたちへの情報発信について考察

直接交流の良さを実感

シリアや難民に対するイメージの変容

シリア・難民問題への興味喚起



結果・考察 (A氏の講話・議論)

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
	講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	* *
議論	実際に生の声を聞くことで考えることができた内容だった。			
	直接話を聞けることは良い機会だなと思った。			
	議論をして新たな視点を獲得した	22	0	* *

** : $p < .01$ 有意差あり

子どもたちへの情報発信について考察

直接交流の良さを実感

シリアや難民に対するイメージの変容

シリア・難民問題への興味喚起



結果・考察 (A氏の講話・議論)

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
	講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	* *
議論	シリアや難民受け入れのイメージが変わったように思えた。 シリアに対する偏見や自分の無知を感じた。			
	本日の議論は教師として役に立つ	22	0	* *
	議論をして新たな視点を獲得した	22	0	* *

** : $p < .01$ 有意差あり

子どもたちへの情報発信について考察

直接交流の良さを実感

シリアや難民に対するイメージの変容

シリア・難民問題への興味喚起



結果・考察（A氏の講話・議論）

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い、講話が良かった	22	0	**
	本日の講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	**
	→グループ議論中のシリア・難民に対する多くの疑問	22	0	**
	本日の議論は教師として役に立つ	22	0	**
議論	議論をして新たな視点を獲得した	22	0	**

**：p<.01有意差あり

子どもたちへの情報発信について考察

直接交流の良さを実感

シリアや難民に対するイメージの変容

シリア・難民問題への興味喚起



結果・考察（B氏の講話・議論）

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
	講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	* *
	講話の内容についてさらに深く学びたい	22	0	* *
議論	本日の議論は教師として役に立つ	22	0	* *
	議論をして新たな視点を獲得した	22	0	* *

** : $p < .01$ 有意差あり

多様な子どもたちとの関わり方について考察

ダブルに対するイメージのズレ

講話における視野の広がり



結果・考察 (B氏の講話・議論)

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
議論	外国人と関わるときにちゃんと歩み寄らないといけない。			* *
	ダブルならではの苦悩やつらい経験は今後の教師としての生き方に役に立つ。			* *

** : $p < .01$ 有意差あり

多様な子どもたちとの関わり方について考察

ダブルに対するイメージのズレ

講話における視野の広がり



結果・考察 (B氏の講話・議論)

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
	講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	* *
議論	講話の内容についてさらに深く学びたい	22	0	* *
	本日の議論は教師として役に立つ	22	0	* *
	議論を通して新たな視点を獲得した	22	0	* *

ダブルの悩みや海外から見た日本について知った。
ダブルは良いイメージだったが、実際は違った。

** : p<.01有意差あり

多様な子どもたちとの関わり方について考察

ダブルに対するイメージのズレ

講話における視野の広がり



結果・考察 (B氏の講話・議論)

	質問項目	肯定	否定	結果
講話	興味深い講話だった	22	0	* *
	本日の講話は教師として役に立つ	22	0	* *
	講話を聴いて新たな視点を獲得した	22	0	* *
議論	講話の内容についてさらに深く学びたい ・アイデンティティは必要で、自分が日本人とかじゃなくて、どこに所属してるかが大事だな。 ・B氏の話から、英語の必要性を実感した。			
		22	0	* *

** : p<.01有意差あり

多様な子どもたちとの関わり方について考察

ダブルに対するイメージのズレ

講話における視野の広がり



結果・考察 インタビュー・グループ議論

本実践を教育に活用する難しさを認識

話を聞ける機会があったら(学校で)してみたいけど、
実際するにはハードルがある。(現職教員)



(難民やダブルなどの) 事実は知れたんだけど、
どう還元するかは分からない。(学生)



直接交流をする時間が学校にあればいいけど、
そこが難しいと思う。(学生)

結果・考察 グループ議論による発話

本実践を教育に活用する難しさを認識

現職教員

- ・ ゴールをどこに定めるかが難しい。
- ・ (難民問題を授業で扱った際)
評価をどうすればいいのか分からなかった。
- ・ (難民受け入れの解釈は)
先生の解釈で子どもの解釈が変わってくる。



学生

- ・ 知らないと子どもたちに話せない。
- ・ 自分が持っている知識が正しいか分からないから、ちゃんと調べないといけない。
- ・ 伝えるとしても、ちょっとした情報しか知らない。



結果・考察 グループ議論による発話

本実践を教育に活用する難しさを認識

現職教員

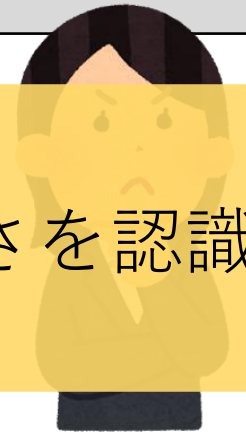
・ゴールをどこに定めるかが難しい。

・(難民問題を授業で扱った際)

授業経験・子どもの実態を踏まえた難しさを認識

・(難民受け入れの解釈は)

先生の解釈で子どもの解釈が変わってくる。



学生

・知らない子どもたちに話せない。

・自分が持っている知識が正しいか分からないから

ちゃんと調べないといけない。

・伝えるとしてちょっとした情報しか知らない。

自分の知識不足から難しさを認識



授業デザインや評価の観点を検討の必要性

本研究のまとめ

【目的】 教員養成課程を対象とした国際交流学習を実践
→教師教育における本実践の意義について検討

【評価方法】 対象：22名(学部生11名, 院生11名)

○アンケート ○インタビュー ○グループ議論の発話

【結果・考察】

- ・ 教師としての視野の広がりを促す
- ・ 直接交流の良さや重要性を実感
- ・ 教育に活用する難しさ・困難さを認識



グローバル社会に対応できる教員の資質・能力の育成に有用

【今後の課題】

教員養成段階での授業デザインや評価の観点の検討